

(研究論文)

絵かき歌の創作に関する一考察

——教員養成機関における実践事例から——

木下信義 (初等教育講座)

西田 治 (初等教育講座)

1. はじめに

美術と音楽の融合した講義ができないだろうか。これが本研究の端緒となった問いである。本学の小学校教育コース1年の講義である「専門ゼミナール」の2コマを美術教育を専門とする木下と音楽教育を専門とする西田で共同して担当することになったため、それぞれの専門性を活かし、共に担当できるテーマを模索してのことだった。お互いがそれぞれにテーマを考えていたが、期せずして一致したのが「絵かき歌」というテーマである。当初は、既存の絵かき歌の紹介と解説、及び長崎に伝承で残っている絵かき歌の調査などを考えていたが、学生たちがより主体的に創造的に取り組めるテーマを設定したいという思いから、絵かき歌の創作をテーマに設定するに至った。また、実際に講義を行ってみると当初の予想をはるかに超えるすばらしい作品がいくつも生まれた。よって本稿では、小学校教員の養成課程における創作絵かき歌の事例紹介とその意義について考察を行う。

2. 授業の概要

授業の概要は以下のとおりである。

- 受講生：35名
- 1グループ7名で5グループ
- 時間数：90分2コマ（原則1週間に1コマで2週間分）
- 時期：2008年10月3日～2009年2月6日

講義の概要は、次の表のとおりである（図表1）。

(図表1)

	講義内容	担当
第一回目	○絵かき歌の創作に関する概要の説明 ・各地方における絵かき歌の伝承について ・幼児および低学年における表現活動の重要性について	木下
	○絵かき歌の紹介 (3曲) 「コックさん」「たぬき」「ひよこ」	西田
	○創作上の注意点の説明 ①完成画がすぐにはわからないものの方が面白い。 ②歌を歌いながら書くこと。 ③小学校低学年でも描けるものにする。	西田
	○線描きで描くことについての説明 ・幼児、低学年の線描材の種類。 ・低学年の児童がどのような絵を描くか。具体例の提示。 ・歌、言葉とともに描くことによる造形遊びの概要について。	木下
	○メロディーの創作についての説明 ・メロディーは、言葉の抑揚が大きくなったようなもので良い。 凝った歌にしない。「たこたこあがれ」などのわらべ唄を参考にする。 ・言語の特性についての説明 日本語の特性…ピッチアクセント。もともと音程の高低をもった言語である。英語は、ストレスアクセント。高低ではなく強弱。	西田
	○受講生による絵かき歌の創作 ・出来上がらなかった場合は、次回までの課題とする。	
第二回目	○各自による絵かき歌の発表 (1回目)。以下の手順を一人ずつ踏んだ。 ①ホワイトボードに描く。 ②その後、全員による話し合い→ 作品の改良 「ここをこうしたほうが良い」「ここが良かったなど」	木下 西田
	○各自による絵かき歌の発表 (2回目) ・ビデオにて撮影 ○記録用紙への清書と感想の記入	

第1回目では、教員側からの説明や具体例の提示を主とした講義を行い、第2回目では、学生による発表と話し合いによる作品の改良を主とした。以下、各部分について、説明を加える。

(1) 絵かき歌の紹介

この部分では、「コックさん」「たぬき」「ひよこ」の3曲を取り上げた。「コックさん」は、手順がやや多いものの単純な形を積み重ねることで描くことができるキャラクターの好例として、「たぬき」は簡単な手順で描ける動物の例として、「ひよこ」は数字の「3」を基本として始めるユニークな例として紹介した。この他にも多様なバリエーションがあることを口頭で説明している。

(2) 創作上の注意点

創作上の注意点として、①完成画がすぐにはわからないものの方が面白い②歌を歌いながら書くこと③小学校低学年でも描けるものにする、の3点を提示した。これは創作を行う上での枠組みの提示である。創作を行う場合に、「自由に作れ」というほど無責任な指導はない。自由度を残しておきながら最低限度の枠組みを提供しなければ工夫が生まれにくいからである。この「創作上の注意点」の設定にあたっては、島崎篤子(2001)の「絵かき歌の約束ごと」を参照している。それは、以下の8点である。

〈絵に関する約束ごと〉

- ① 始まりの言葉に、「～がありました」「～ちゃん(さん)が」等が多い。
- ② 完成画から離れたイメージのものからスタートし、意外性を重視する。
- ③ 描くプロセスそれ自体が意味を感じさせる形を現し、描くプロセスが楽しめる。
- ④ 最終段階では、「あつという間に」の言葉で完成画に到達することが多い。

〈歌に関する約束ごと〉

- ① 絵をかきながら、必ず歌う(歌いながらかく)。
- ② リズムによって歌うが、絵をかく速さに合わせてメロディーラインのテンポが伸縮する。
- ③ メロディーは日本語の抑揚に合わせて自然と生まれる単純なわらべうたが多い。
- ④ 新しい絵かき歌では、西洋音階による既成曲を活用してもよい。

[島崎、2001 : p.150]

今回設定した注意点の「①完成画がすぐにはわからないものの方が面白い」については、島崎の「〈絵に関する約束ごと〉②完成画から離れたイメージのものからスタートし、意外性を重視する。」を参考にしてものである。「コックさん」を一例にとっても、最後に帽子を描くまでそれがコックさんだとは分からない、意外性が絵かき歌をより魅力あるものになっている要素と考えてのことだ。

同様に「②歌を歌いながら書くこと」は、島崎の「〈歌に関する約束ごと〉①絵をかきながら、必ず歌う（歌いながらかく）。」を参考としている。この点については、当たり前とも思われたが、絵を描くだけではなく歌も創作する、という意識を高めるためにあえて注意点に入れた。

最後に「③小学校低学年でも描けるものにする」についてだが、これは単に絵かき歌を作らせるのではなく、子どもの発達段階を踏まえて創作させよう、との意図があつてのことだった。幼稚園と小学校の連携も考慮に入れ、音楽と美術が未分化な活動をさせるには低学年が適していると考え、低学年の児童が取り組めるものという基準を設けた。

（3）線描きで描くことについての説明

5～6歳の幼児と小学校低学年は、ものを見て表すことよりも自分の想像したイメージを表す傾向にある。描くものは、人の顔、花、魚、動物、昆虫などを単純化したイメージやアニメのキャラクターなどが想定される。また、線描材は鉛筆、ボールペン、油性ペン（大、中、小）クレヨン、パスなどが子どもの表現に適している。

子どもに歌を歌いながら描かせることは、表現活動の活性化が促進されるとともに、表現に子どもが自信を持つことにつながる。このことは本講義のポイントである。学生には、アイデアの段階では鉛筆で構想を練らせて本描きでは油性ペン（大、中）を使用させた。

（4）メロディーの創作についての説明

メロディーを創作するとなると、作曲のようなイメージを抱いてしまうが、そうではなく話言葉の抑揚を大きくしたものをベースに考える、ということを軸に説明を行った。「〇〇ちゃんあーそーぼ」などの呼びかけや、「たこたこあがれ」などは、いずれも話言葉の抑揚が大きくなったものと捉えられる。もともと言語の特性として、日本語はピッチアクセントであり、音の高低を内在させている言語である。よって難しく考えなくとも、拍子をとりながら何度か唱えることで歌になっていく、という説明を行った。わらべ唄以外の例としては、山田耕筰の「赤とんぼ」も日本語の抑揚に従って作られてものであることを示唆し、言葉の抑揚と音楽の関係について説明を行った。また言葉と歌の関係性に気づかせるため、谷川俊太郎の「かえる」を読み合わせる活動も行った。

（5）絵かき歌の創作

この部分は、今までのことを踏まえ、自分達で試行錯誤しながら絵かき歌を作るという活動である。いずれの学生も先ず



はどのような絵を描くか、その対象物の描画から取り組んでいた。学生同士、描いた絵を見せ合いながらお互いのアイディアを披露しあっている姿は非常に生き生きとしたものだった。ほとんどの学生が、第1回目の講義時間内では完成させることはなく、各自、来週までの課題ということで第1回目の講義は終えた。

(6) 各自による絵かき歌の発表

ここから第2回目の講義である。一人ずつホワイトボードを使って創作してきた絵かき歌の発表を行った。絵の面では木下が、歌の面は西田が主となってアドバイスをを行い、改良を加えていった。また、グループ内の他の学生もからも活発にアドバイスや励ましがなされていた。主な改良のポイントは、歌が単調すぎるため抑揚をつけること、出来上がるまでのストーリーの一貫性、絵のバランスなどであった。また、内容とは別であるが、多くの学生が緊張のため歌声が小さくメロディーラインがわからない場合が多かった。「もっと明るい声で抑揚をつけて語尾を上げたり下げたりしてみてもどうか」とアドバイスするとほとんどの学生が上手くいった。いずれにしても自分のつくったものを人前で披露することは、当事者から見れば勇気のいることであるため、アドバイスをを行う際も否定的なムードにだけはならないよう常に配慮した。そして、最後に一人ずつビデオ撮影をしながら改良した作品の発表を行った。初めの緊張した雰囲気とは異なり、緊張感を持ちながらも楽しんで発表している姿が印象的であった。

3. 学生による作品と感想

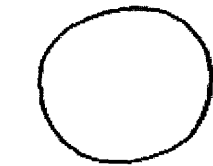
学生が創作した絵かき歌の一覧は右の表のとおりである(図表2)。絵かき歌の曲数は、合計38曲となった。これは、一人で2つ以上の作品を提出した学生がいるためである。

絵の題材	具体的名称	歌	件数
動植物	牛	オリジナル	2
	豚	オリジナル	3
	タコ	オリジナル	2
	蟹	オリジナル	2
	ねずみ	オリジナル	1
	ライオン	オリジナル	1
	ひよこ	オリジナル	1
	犬	オリジナル	1
	なまけもの	オリジナル	1
	だちょう	オリジナル	1
	猿	オリジナル	1
	猿	「アイアイ」の替え歌	1
	ハチ	オリジナル	1
	ハチ	「ぶんぶんぶん」の替え歌	1
	かたつむり	オリジナル	2
	ウニ	オリジナル	1
	ひまわり	オリジナル	1
既存のキャラクター	ピカチュウ	オリジナル	1
	ボンデライオン	オリジナル	2
	アンパンマン	オリジナル	1
	ドコモダケ	オリジナル	1
	カービー	オリジナル	1
	おでんくん	オリジナル	1
	お茶犬	オリジナル	1
	こだく	オリジナル	1
	チャーリー・ブラウン	オリジナル	1
	ガチャピン	オリジナル	1
その他	かっぱ	オリジナル	1
	帽子	オリジナル	1
	サンタクロース	オリジナル	1
	雛人形	オリジナル	1
合計			38

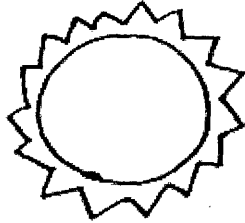
(図表2)

以下、作品例として5名の学生の作品を紹介する。

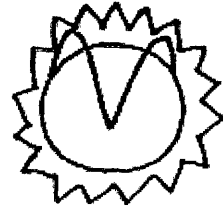
○中尾理子：ライオン



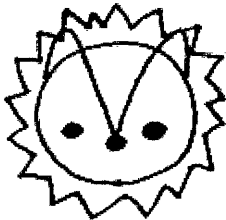
① まんまる
お月様しつ



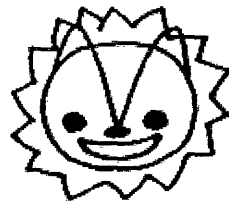
② 夜から朝がやってくる...
太陽さんさか輝いて



③ 山や谷へとお散歩だ!!



④ おなかがいっぱい
アパン3つ



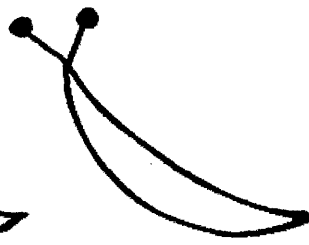
⑤ 大きなお口で
食べたな5...

★ ライオンさんの
出来上がり!!

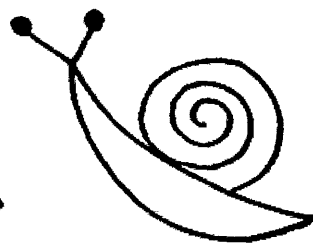
○富野志帆：かたつむり



バナナが1本
あつました

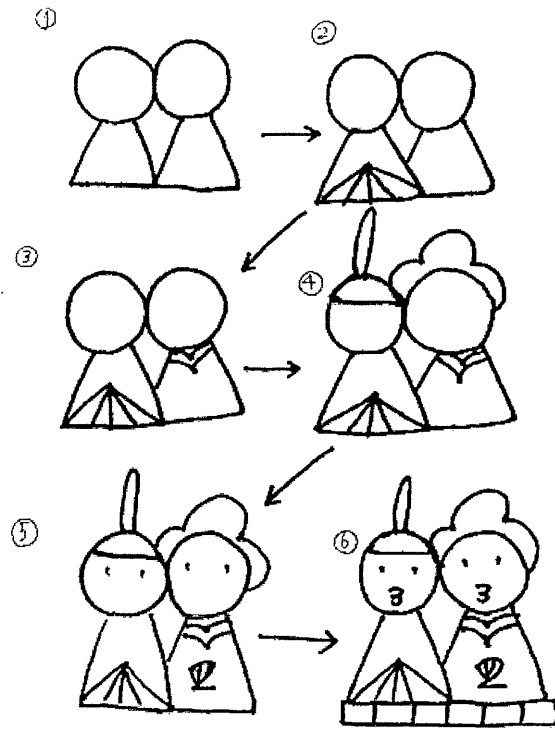


さくらんぼが
くっついて



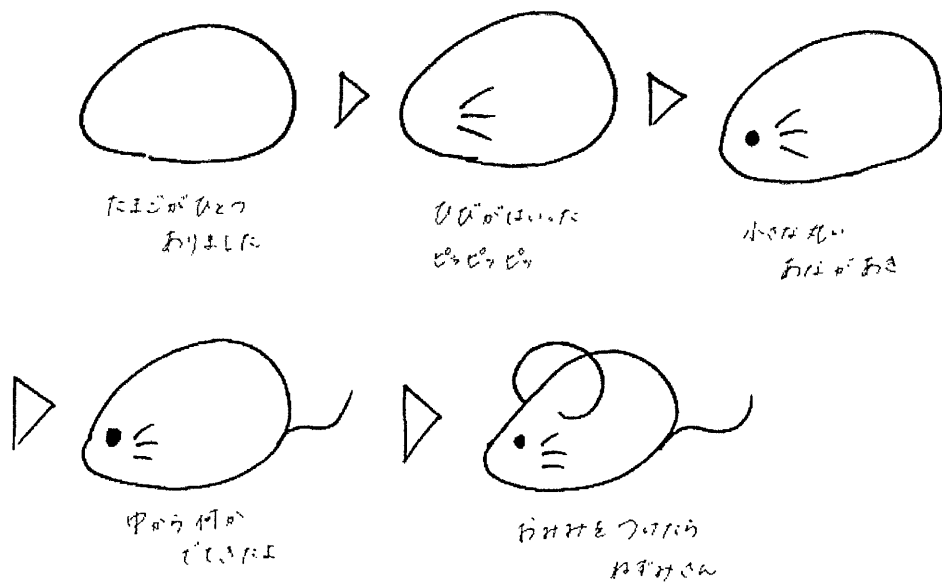
ロールケーキを
のせたらなら
かたつむりの
できあがり!!

○山田愛美：雛人形

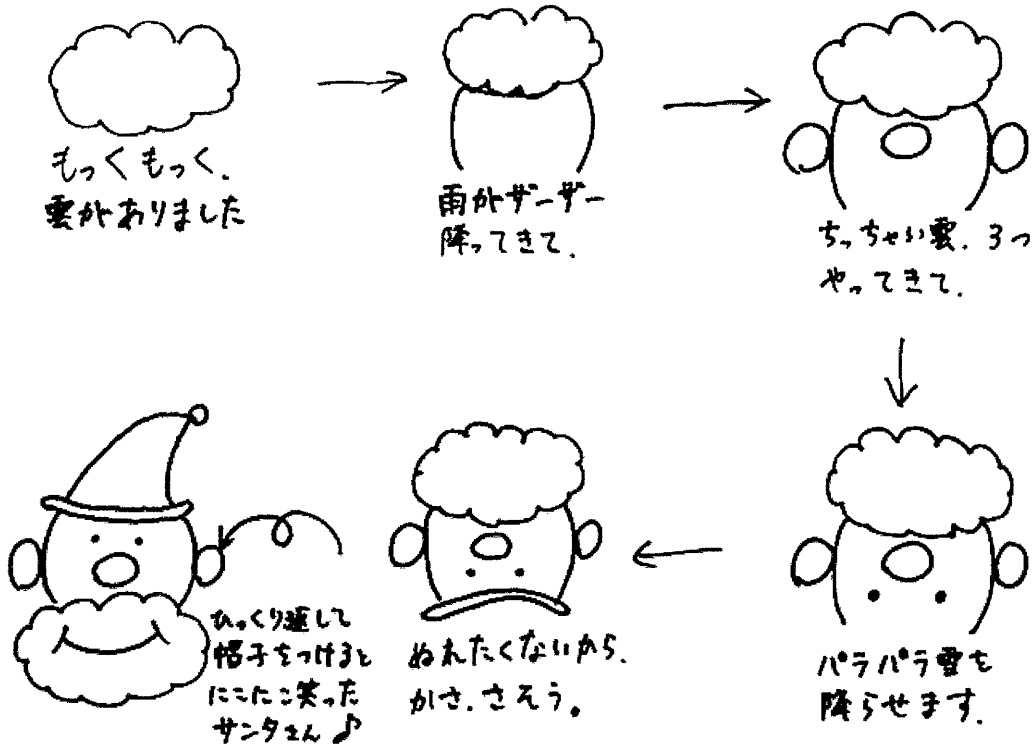


- ① ちくちくぼうずが2つあり
- ② 三角お屋根にゆぶ...?
- ③ 両がピチ+ピチ+はじけり
- ④ 向こうのお山が見えたり
- ⑤ 2月3日に豆まき
- ⑥ 3月3日はひな祭り

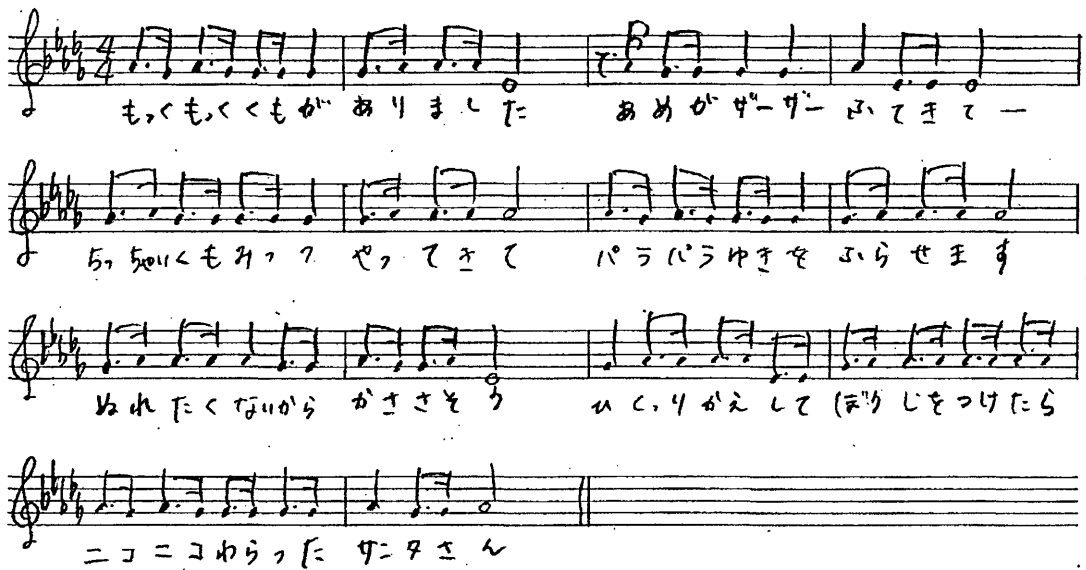
○廣戸梨菜：ねずみ



○池原健志郎：サンタクロース



一例として、上記の作品のメロディーを紹介する（採譜・補作：西田）。黒鍵のみを使ったペンタトニックである。



以下、2回の講義を終えての学生からの感想（抜粋）である。

<p>この授業は本当に楽しかった。自分で絵かき歌をつくるのははじめてだったので、始めはすごく悩んだけど、題を決めるとスラスラできた。みんなの作品を見るのも楽しくて良かった。これからも新しく作ってみたいと思う。</p>
<p>最初は緊張したけどすごく楽しめました。実際にホワイトボードに○を描くのは難しく、ブサイクなカップになってしまいましたが、自分の描いた絵に愛着ももてたので良かったです。次回があれば、もっとこったのに挑戦していきたいです。</p>
<p>とても楽しい専門ゼミナールでした。絵かきうたを発表するのはとても緊張したけれど、一緒に歌って書くのは、気分的にもどんどんのってきて、緊張も忘れて子どもになったように楽しめました。今回考えた絵かきうたを子どもたちがやってくれたらいいなと思います。</p>
<p>歌を歌うのは好きだけれど、小さい頃から絵を描くことが苦手なので、とても苦労した。でも、楽しくできたのでよかったし、「楽しむ」ということが一番大切なことだと思う。もし、自分がこの絵かき歌を教材として使うなら、児童が楽しめるということを一番に考え取り組んでいきたい。</p>
<p>この授業を通して、絵かき歌がとても楽しいものだと感じました。私が知っている絵かき歌といえば「へのもへじ」とか「コックさん」くらいです。誰がつくったかは知りませんが、実際絵かき歌を作ってみて、考えるだけでも難しかったので、作った人はすごいと思います。しかも、作られたものが、誰でも知っているごく普通のもの（例えば「へ」とか葉っぱといったもの）で構成されているので子どもでも覚えやすいものになっています。出来上がった絵を逆さにするとサルだったというのは子どもからしてもおもしろいと思います。本当に楽しかったです。ありがとうございました。</p>
<p>今回、自分で絵かき歌を考えてみて、歌詞やリズムをつくるのがとても難しかったです。他の人からの意見もできてストーリー性のある絵かき歌になったので良かったです。</p>
<p>今回初めて、絵かき歌を作ってみて、始めなかなかアイデアが浮かばなくて、色々考えたけれどパッとアイデアが出てからは、本当に楽しく作ることができました。途中、ことばをメロディーにのせて口ずさみながら、実際に自分も絵かき歌にはまりながらの作業も面白かったです。また、友達の作品を見て、そのアイデアの豊富さにとてもびっくりしました。私が思いつかないようなことをしていたので、とても楽しかったです。それに、ことばがきれいだったり、と勉強になったところも多かったです。このように絵かき歌はその作る人によって、何百も何千ものパターンを生み出します。その人だけのオリジナルが楽しさの一つかもしれないと思いました。</p>
<p>何をかくか決めるまでは時間がかかりましたが、題が決まってからはスムーズに進んだように思います。言葉をそのまま歌にすることは難しいように思いましたが、やってみると意外に好評で、やってみて良かったです。一度やってみるとまたやってみたいと思いました。</p>
<p>今回のゼミを通して絵かき歌の楽しさを知ると同時に勉強にもなりました。子どもの頃は、よく絵かき歌をして遊んだが、実際に作るという作業は初めてであり、最初は作るのが難しいと思っていました。しかし、始めてみると意外に楽しく、リズムも普通に日本語を読めばそれが歌になることを知り、楽しめながら作ることができました。また、自分だけでなく、他の学生の絵かき歌も色々な発想があり、とても楽しかった。ぜひ小学校低学年で実践してほしいです。</p>
<p>初めて絵かき歌を作りました。実際考えてみると、なかなか案が出てこずに苦労しましたが、出来上がって歌ってみると、自分でもおもしろくてビックリです。小さい頃は、何かが描けると嬉しかったり、歌にのせると、あっという間にできるので、いろこにも教えてあげたいと思いました。（中略）楽しい2時間でした。ありがとうございました。</p>
<p>絵かき歌をかくことはとても、自分で作り完成したことは初めてでした。何を絵かき歌にしようか迷い、どんな手順で、どんな音楽にのせるかなど考えることが多く難しかったです。でも、とても楽しかったし、みんなの絵かき歌も見れ得たアイディが人それぞれだなと実感しました。最後はみんな大成功だったので良かったです。今回作った絵かき歌は大切にしようと思います。</p>
<p>今回の2回の専門ゼミナールを通して、自分自身で、絵かき歌を作るという今までにない経験を経ることができた。実際、つくる前はできそうにないだろうと思っていたが、非常に楽しみながら取り組み完成させることができた。また、友達の絵かき歌を見て、上手だなと思ったし、色々こうしたほうが良いと案を出したりしてとても有意義な時間になった。</p>

(感想続き)

何をかくかものすごく悩み、また歌を歌いながらとかって感じだったけど、いざ描くものを決め絵を描いてから歌詞をつけていくのはとても楽しかった。発表はとても緊張した。でもいい体験をしたと思う。子どもたちとも楽しく触れ合うことができる取り組みであると思った。
絵を描くのが苦手なので、とても難しかったです。でも書いていてとても楽しくなりました。また、友達が考えてきたのを見たり、一緒に書いたりすることでさらに楽しくなりました。やはりポイントは完成が何になるかわからないことだと感じました。今回の授業で、絵かき歌の魅力に触れた気がします。
初めて絵かき歌を作ってみて、絵を歌で表現することが一番難しかったです。歌いながら絵を描くと、思っていた完成図とは異なるものになってしまったりと苦戦しました。けれど、やはりできた時は楽しかったし、簡単なものなら作れる気がして、楽しく活動できました。どこかで今日私たちつくった絵かき歌を子どもたちの前で披露できたらいいな、と思います。日本語は抑揚の付け方次第ですぐに歌になるので面白いと思います。
歌も絵も苦手で、中学校の時も音楽と美術が苦手だったので、友達から絵かき歌をすると聞いた時は嫌だと思っていたけど、実際やってみると楽しかった。自分の番のときはすごく緊張したけれど、ちゃんと間違わないでできて良かったし、他の人の番の時もすごく頑張って作ったのが伝わってきたし、色々なアイデアがあって面白かった。

4. 考察

本講義を実施しての感想は、取り組んでいる学生たちの生き生きとした表情が印象的だったこと、そして、何よりも予想をはるかに超え学生たちの作品が素晴らしかったことである。当初の目的は、絵かき歌を見直すこと、低学年用の絵かき歌教材の開発であった。講義終了後の学生の感想からもこれらの目的が果たせたことは確認できたが、絵かき歌の創作にはそれ以上の意味や効果が分かった。それは以下の4点にまとめられる。

- ①美術と音楽の苦手意識の払拭
- ②体験的に創作の楽しさを学べる
- ③絵かき歌の魅力再発見
- ④学生同士の学び合い・高め合いの効果 → 集団での学びの意味

1 グループ当たり何名かは「音楽が苦手だから…」 「絵が苦手だから…」 といった苦手意識を持って本講義に参加していた。しかし、講義を終える際の感想には、「絵を描くのが苦手なので、とても難しかったです。でも書いていてとても楽しくなりました。」 「歌も絵も苦手で、中学校の時も音楽と美術が苦手だったので、友達から絵かき歌をすると聞いた時は嫌だと思っていたけど、実際やってみると楽しかった。」 という苦手意識を軽減されたという内容の感想が多々見受けられた。将来、小学校教員を目指す学生たちにとって音楽、図工、体育という実技を伴う科目は避けて通れないが、各自、いずれかに苦手意識を持っている場合が多い。教員養成機関では、学生たちに実技力をつけいくことも求められるが、まずは苦手意識の払拭が第一段階である。思わぬ効果であったが、絵かき歌の創作は、童心に戻り音

楽と絵を描くことに触れることで、音楽と図工に対する苦手意識を払拭する効果があることが分かった。

また、多くの学生が本講義を楽しんでいることが感想からうかがい知れたが、その理由は「つくるのが楽しい」「友人と意見交換しながら意味ある作業をすることが楽しい」の2点に集約できる。多くの学生は、こういった講義の課題でもない限り絵かき歌を新しく創作する機会はない。しかし、課題として出され、半強制的にはあるが取り組んでみることで次第にその楽しさや難しさに触れていったようである。感想には、「これからも新しく作ってみたいと思う。」「次回があれば、もっと凝ったのに挑戦していきたいです」といったものが見られた。また、お互いの作品にアドバイスや励ましを行うことで学生同士の学び合いが促進されていた。お互いを高め合い、ともに何かを作り上げる活動という意味でも絵かき歌の創作意義はあるものと考えられる。

島崎篤子（2001）は、創作絵かき歌の良さとして次の9点が挙げられている。

- ①「歌いながら書く絵」という約束ごとに市がった創作体験ができる。
- ②クリエイティブな頭な働かせ方を体験することができる。
- ③絵と歌が一体化した最も素朴な子供の文化に、創作を通してアプローチができる。
- ④様々な既成の絵かき歌の誕生の瞬間を、追体験することができる。
- ⑤歌いながら自作の絵をかき、発表する楽しさを体験することができる。
- ⑥自作の創作絵かき歌には、既成のもの以上に愛着をもつことができる。
- ⑦自分で納得のできる完成画をめざして様々な工夫することができる。
- ⑧日本独自といえるほど珍しい絵かき歌の伝承の在り方を考えるチャンスになる。
- ⑨楽しみながら本格的な音楽づくりの予備的体験ができる。

[島崎、2001 : p.152]

島崎の指摘は、本講義の実施を通して筆者が感じたこと、学生の感想に書かれている内容からも納得のいくものである。絵かき歌を題材とした講義を行うにしても、単に既存の絵かき歌を覚えるだけでは、学生が楽しめるものにまでなる可能性は低いであろう。難易度を上げて創作することを通して絵かき歌に触れさせることで、その良さを再認識させることができる。また、絵かき歌を通して絵を描く楽しみ、誰かと一緒に歌う楽しみといった音楽や美術そのものの楽しさも再認識できるものと考えられる。今後も本講義を継続し、教員養成機関での絵かき歌の創作の意義と効果について実証的な研究を行っていきたい。

またこれは蛇足であるが、小中学校では、教科の枠組みを超えた学びの必要が謳われて久しい。今後は大学においても、それぞれの専門性を生かしながらもその枠を超えて共同して何かを作っていくことが望まれるだろう。今回は、美術と音楽をそれぞれに専門とする教員によって講義を行ったが、その過程で教員である私たち自身が得たものも非常に大きかった。

【参考文献】

島崎篤子（2001）「「保育音楽」の授業における絵かき歌」『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要 第11号』pp.147-161

竹井史郎（2007）『みんなだいすき！なつかし絵かき歌』PHP 研究所

谷川俊太郎（1981）『ことばあそびうた また』福音館書店

中地雅之（1994）『ことば・あそび・うた』日本ショット株式会社